



小麦粉粘土 不思議だね！
品川区立源氏前保育園（東京都品川区）

[2歳児]

<事前の様子> 保育者が子どもたちの目の前で粉から練って小麦粉粘土を作ること、2歳児なりに粘土になっていく過程や、水が加わることで変わっていく感触を楽しむ。

	子どもの様子（子） 保育者の働きかけ（保）	読み取り（*）
粘土になる感触	<p>保：粉のままで触れるようにして「どんな感じ？」と聞く。 子：「白くなったー」と手が白くなったことを言葉にする。 保：「お水を入れていくよ」と言いながら、小麦粉に水を加える。 子：「固まってきた」「固まってきたよ」 保：「固まってきたね。もういいかな？」 子：「もういいよ」 保：「どんな感じ？いつもの粘土より硬い？柔らかい？」 子：「硬～い」と触って言う。 保：「もうちょっと、水を入れようか」 こうして、やりとりをしながら程よい硬さの小麦粉粘土にする。 保：できた粘土を、子ども一人ひとりの手に乗せて「どんな感じ？」と声をかける。 子：「柔らかくていい気持ち」 保：「なんで柔らかくなったのかな？」 子：「お水を入れたからだよ」 子：触れたりこねたりしながら、粘土遊びを楽しむ。 A児：小麦粉粘土を触らないで見ている。</p>	<p>* 感触より、見た目のことを言葉にしている。</p>  <p>* 手で感触を味わっている。 * A児は小麦粉粘土に抵抗感がある。</p>
足の感触 ～翌日～	<p>保：小麦粉粘土を床に置いて、素足で踏んで感触を楽しめるようにする。 保：保育者も素足になり感触を楽しみながら「足で踏むとどんな感じ？」と、尋ねる。 子：「冷たーい」 子：「柔らかくていい気持ち」 子：「足だよ！」と、足の形ができたことに気付いて言う。 保：「本当だ、足の形になったね」 A児：友達の楽しそうな様子をじっと見ている。 保：A児の視線や表情から興味をもっている様子がうかがえるので、A児に小さくちぎった小麦粉粘土を渡す。 A児：小麦粉粘土に触れた手が汚れていないか確認する。汚れていないことがわかると、つぶしたり平らにしたりして、柔らかい感触を味わって楽しんでいる。</p> 	<p>* 足で踏み、感触や形を楽しむ。</p> <p>* A児は友達の刺激を受けて興味をもち始めている。 * A児なりに柔らかい感触や形作りを楽しんでいる。</p>
1カ月後	<p>保：小麦粉粘土作りの準備をしながら、粘土遊びをすることを知らせる。 子：小麦粉粘土遊びができることがわかり喜ぶ。 保：今まで同様にやりとりをしながら粘土を作る。粘土が付いた手を見せて「どんな感じ？」と尋ねる。 子：「さらさらしてる」 子：「手にいっぱいくっついた。お化けみたい」 保：手に付いている小麦粉粘土をバラバラ落として見せる。 子：「雨みたい」 <この後、食紅を使ってピンク色に染めて楽しむ></p>	<p>* 前回の経験を思い出しながら、粉から粘土になる過程を楽しむ。 * 雨天の日が多い時期なので雨を連想している。</p>

みどころ

粉、水、粘土になっていく状態や質感など、うまく言葉にならない2歳児の表現を保育者が受け止めたり引き出したりして遊びを楽しんでいます。少し抵抗感がある気持ちも受け止めて、その子なりに心を動かして遊ぶ姿を引き出す展開の工夫をしています。